

### 資料3 民間委託の効果・課題について



# 民間委託の効果・課題について

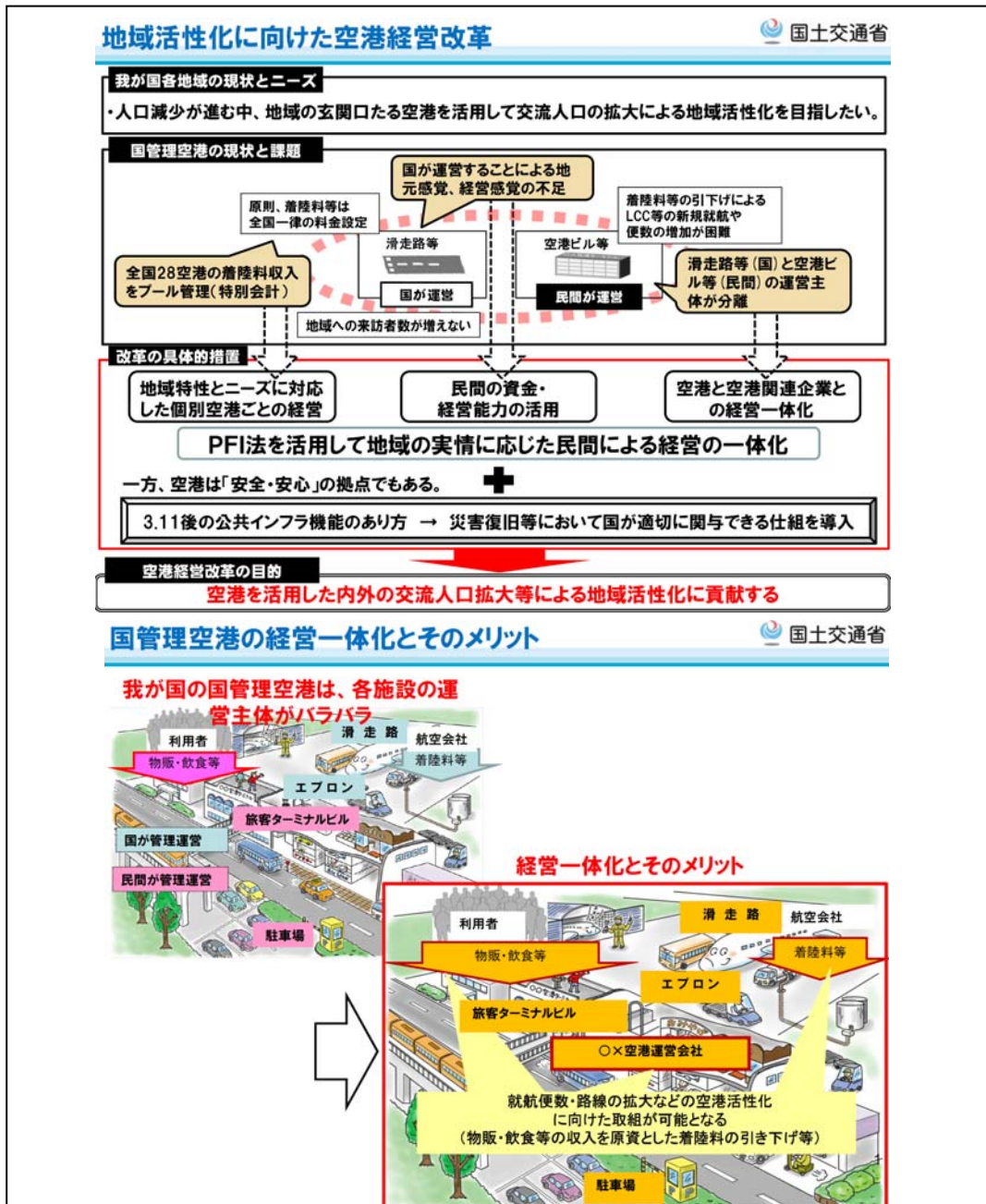
## 1. 民活空港運営法において期待される効果

現在の国管理空港は、滑走路等の運営は国が、ターミナルビル等の運営は空港ビル会社等の民間事業者が運営しており、担い手が分離している。国が所有権を保有したまま、滑走路等の運営を民間事業者へ委託し、滑走路等の運営とターミナルビル等の運営を経営一体化することにより、就航路線・便数、旅客数、地域の交流人口の増加等による地域活性化が期待されている。

### 期待される効果

- 民間のノウハウによる非航空系収入の増大と徹底的な効率化・コスト縮減
- 収益力の改善を原資とした着陸料等の引き下げや需要に応じた戦略的な空港使用料等の設定
- 航空会社・旅客ニーズに的確に対応した動線設定等、施設の利便性向上
- 地域と連携した観光振興や空港周辺開発の取り組み

➡ 就航路線・便数、旅客数、地域の交流人口の拡大等による地域活性化



## 2. 福岡空港における民間委託の効果と課題

福岡空港における民間委託の効果と課題について、2つの必要な機能（①航空ネットワークの拡充、②更なる利便性の向上）を高めることができるかという視点もふまえながら検討すると、以下のようなものが考えられるのではないか。

また、課題については、福岡空港の個別事情や一般的に考えられるリスクも考慮する必要があるのではないか。

### （1）考えられる効果

#### ①戦略的な空港運営の実現により航空ネットワークが拡充できるのではないか

- ・ 空港運営が一体化されることで、戦略的で柔軟な空港使用料の設定や発着枠の割り当てなどを活かした路線誘致活動が可能となるのではないか。
- ・ 民間の知恵や創意工夫を活用した経費節減等、効率性が向上し、それにより生じる経営資源の余力を、路線誘致に投入できるのではないか。
- ・ LCC等の誘致により料金・サービスの多様化が進んでおり、利用者にとって多様なサービスの選択が可能となることから、利用者の利便が高まるのではないか。

#### ②効率性の向上による更なる施設整備などにより、利用者利便が向上するのではないか

- ・ 民間の知恵や創意工夫を活用した経費節減等、効率性が向上し、それにより生じる経営資源の余力を、利便性向上のための施設整備等に投入できるのではないか。

## (2) 福岡空港の個別事情による課題

### ①借地料について

- ・ 運営権者に借地料負担が生じないことを前提とするべきではないか。

### ②環境対策について

- ・ 福岡空港の円滑な運営は空港周辺住民の理解のもとで成立しており、必要な水準の事業が的確に実施される仕組みとともに、国と周辺住民との信頼関係を重視した対応が必要ではないか。

### ③平行誘導路二重化及び滑走路増設について

#### (ア) 平行誘導路二重化

- ・ 国内線旅客ターミナルビルの再整備事業中に空港運営の民間委託が導入される場合、ターミナルビルのセットバック事業への影響はないのか。

#### (イ) 滑走路増設

- ・ 滑走路増設については、福岡空港の能力向上の観点から、国が責任をもって早期に完成させる必要があるのではないかと。

## (3) 民間委託の課題

### ①地域戦略・地域経済に協力・貢献できるのか

- ・ 空港は地域の発展を支える重要なインフラであり、運営権者も地域の一員という立場で地域戦略に協力する必要があるのではないかと。
- ・ 便数や旅客数を増やすことにより、地域経済に貢献するという意識を、運営権者として持つべきではないかと。

### ②継続性のある安定した空港運営を確保できるのか

- ・ 経営環境の変化に対応しつつ、長期にわたり安定的な空港運営を維持・継続することが可能なのか。

### ③必要な投資を確保できるのか

- ・ 運営権者によっては、収益を最優先される恐れがあり、施設の建て替えや改修、路線誘致等への投資がなされるのか。

### ④大規模災害時の早期復旧に対応できるのか

- ・ 空港は、災害時において救命救急活動等の拠点であり、国や自治体等が実施する災害復旧活動等に対して積極的に協力する必要があるが、運営権者に可能なのか。
- ・ 空港が大規模災害に遭った場合、早期の災害復旧への対応が必要であるが、運営権者に可能なのか。

### ⑤外資の取り扱いをどうするのか